

超音波探傷器 FD-650N

仕様

項目	仕様
表示器及び表示の方式	表示器:3.5インチ角形ブラウン管(内面目盛り付き) 探傷時の図形表示:AScope、DC表示(不飽和形) 試験周波数測定時の波形表示:AC表示
探傷方式	一探触子法及び二探触子法
送信パルスの振幅	約250V(p-p)
高周波増幅回路の周波数帯域幅	1.4~7.0MHz(-3dB)
試験周波数の測定及び時間応答性の測定機能	内蔵された波形観測機能により測定
測定範囲	15~700mm(鋼中横波) ただしゲートオフでは5~700mm(鋼中横波)
時間軸直線性	±1%以内
掃引遅延範囲	0~250mm(鋼中横波)
感度	80dB以上(JIS-Z-2351)
増幅直線性	2MHz及び5MHzにて±3%以内

*1:バッテリーで使用できる時間は使用条件と環境によって若干異なる場合があります。

項目	仕様
ゲイン調整器	調整範囲:0~90dB、0.5dBステップ 構成:20dBステップ×2、2dBステップ×20 0.5dBステップ×20
ゲート回路	ゲート数:1 ゲートの遅延範囲:0~250mm(鋼中横波) ゲートマーカの幅:3mm~100mm(鋼中横波) 警報出力:ブザー、LED表示 警報レベル:表示器の縦軸目盛上10~100%任意設定可
電源	・専用ニッカドバッテリー ・AC100V、50/60Hz ・単1形乾電池
バッテリー連続使用時間 *1	7時間(専用バッテリー使用時)
使用周囲温度	-5℃~+45℃
外形寸法(mm)	約236W×108H×320D
質量(kgf)	5.3(バッテリー含)

標準付属品

- ◆ 専用ニッカドバッテリー: 5KR-5000DEL 1個
- ◆ チャージャ: FDC-650N 1個
- ◆ ACアダプタ: FDP-650N 1個
- ◆ 補助目盛板: FD-650N用(透明) 2枚
- ◆ 取扱説明書 1部
- ◆ 検査成績書 1部



このカタログは、環境に配慮した水なしオフセット印刷機 QuickMasterDIを使用して印刷しております。

RSEC 三菱電機グループ
菱電湘南エレクトロニクス株式会社
http://www.rsec.co.jp

〒247-0066/神奈川県鎌倉市山崎25番地
TEL:0467-45-3411 FAX:0467-44-7517

⚠ 安全に関するご注意

●ご使用前に取扱説明書(マニュアル等)をよくお読みの上、正しくお使いください。

アナログ超音波探傷器 FD-650N

より高い信頼性を実現。

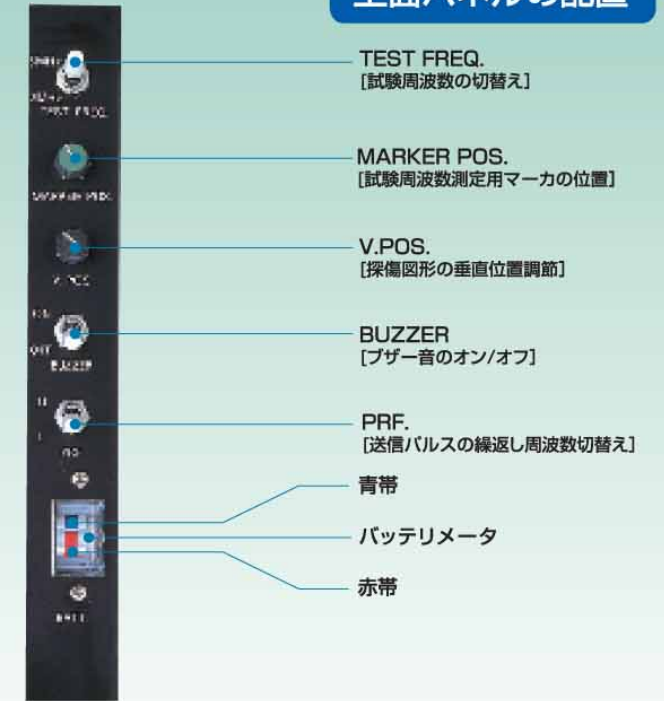


使い慣れた超音波探傷器に、さらに磨きをかけたFD-650N

正面パネル [実寸法]



上面パネルの配置



※波形は、はめ込み合成です。

「超音波技量認定試験」「建築鉄骨超音波検査技術者試験」にも採用されている、初心者からベテランまでのニーズに応えるアナログ超音波探傷器です。この1台で、探傷試験結果における再現性の確保に不可欠な、試験周波数やエコー波形の時間対応性が測定できるオシロスコープ機能を標準装備。探傷試験がより手軽に容易に行えながらも、高い信頼性を実現します。

特長 1 エコー波形の観測機能を内蔵

- エコー信号のAC波形を観測できるオシロスコープ機能を、標準装備しています。
- 現場で容易に試験周波数やエコー波形の時間応答性を確認できます。

(試験周波数は、JISZ 3060やJISZ 3080などで規定。エコー波形の時間応答性は、JISZ 2350やISO DIS 10375で規定。)

特長 3 現場対応

- 接触媒質(油など)が、ケース内部に侵入しにくい構造です。
- 補助目盛板の交換が簡単です。

特長 2 乾電池でも使用可能

- 専用のバッテリー以外に、市販の単1形乾電池も使用できます。(アルカリ乾電池を使用した場合、約10時間使用可能。)

特長 4 読みとりやすい表示器のエコー位置

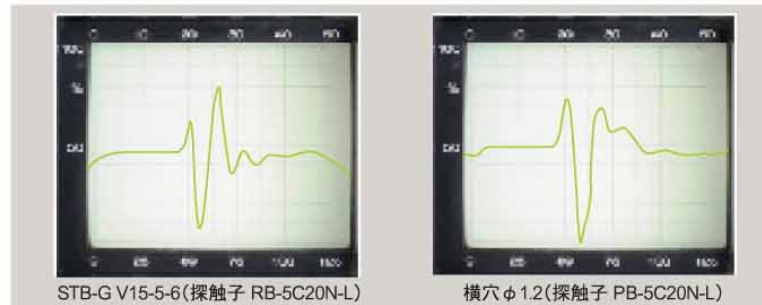
- 表示器の目盛の下に、溶接部の探傷によく用いられる[0~125mm]のスケールを付けたため、測定範囲[125mm]のレンジでのエコーの位置が読みやすくなりました。

用途例

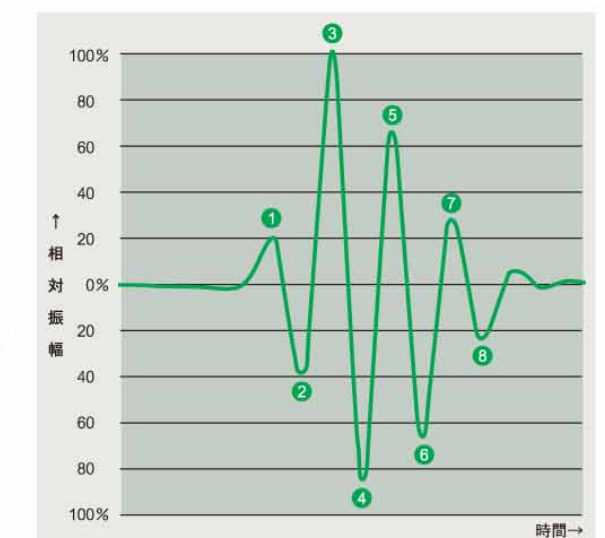
- 建築・橋梁などの鉄骨溶接部の超音波探傷
- タンク・圧力容器の保守検査
- 部品素材の超音波探傷
- 一般の超音波探傷

オシロスコープ機能の用途

A エコーのAC波形を観測できる

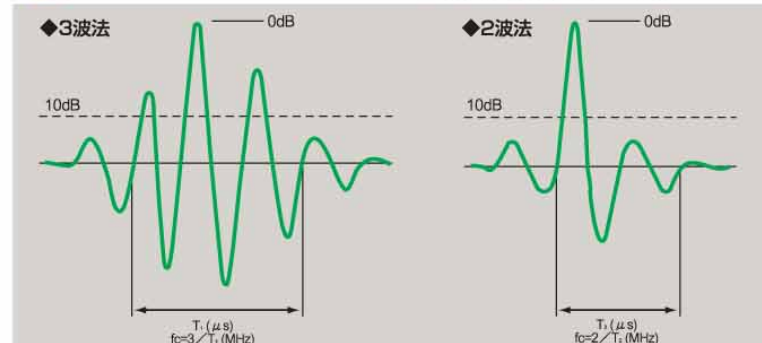


C エコー波形の時間応答性が測定できる



JIS Z 2350 及びISO 10375に規定される測定方法。この例では、ピーク数(P-n)8となる。

B サイクルスペースで試験周波数を測定できる



※ピーク値(0dB)から-10dBの所に線を引き、波形の最大値前後のピークがこの線より上にある場合は、3波法を用いる。また、波形の最大値前後のピークがこの線より下にある場合には、2波法を用いる。(JIS Z 2350/ISO DIS 10375による。)